

令和7年度 教育基本構想推進委員会

令和7年度 教育基本構想進捗状況報告

1 各委員会の活動状況について

12年間をつなぐ推進委員会

◆本委員会が推進していくこと

自分も周りも大切にしながら、人・もの・ことに積極的につながる力を育むために、12年間の学びや育ちのつながりを推進する

◆推進の方向

- ①本委員会の方針と活動について、各校教職員への周知と共通理解
- ②自分の周りも大切にしたいつながりを支える取組の実施
- ③今年度の取組の成果と課題から来年度の検討

これまでの委員会の主な内容

<定例>

①5月28日(水)第1回委員会

- ・本委員会の方針と今年度の活動内容の確認
- ・昨年度の実践の振り返り

②11月25日(火)第2回委員会(小中学校推進委員のみ)

- ・高浜カリキュラム「SDGsについての学習」各校の進捗状況の報告

③1月28日(水)第3回委員会

- ・今年度の活動の振り返り
- ・高浜カリキュラム「SDGsについての学習」今年度の成果と次年度への課題

<今年度の成果>【資料1】

- ① 異校種間・異学年間連携事業の実践と充実に向けた取組

- 子ども中心の活動「異校種間・異学年間交流」
- 教師中心の活動「異校種間・異学年間参観」

幼・保→小 21回 小→幼・保 9回 小→中 4回 中→小 0回 合計34回

- ② 高浜市が育てていきたい子どもの姿の周知に向けてのカレンダーの活用

- ③ 高浜カリキュラム「SDGsについての学習」の実践【資料2】

令和7年度から、本委員会で作成したモデルプランを基に、各小学校において6年生の総合的な学習の時間で、SDGsをテーマとした学習の実践を始めた。子どもたちは、教材の内容に驚いたり、心を動かしたりしながら、SDGsについての理解を深めた。また、「SDGsについてもっと知りたい」ということを自由に調べたり、「SDGsの目標を達成するために自分ができること」を個人やグループで考えて試したりする中で、SDGsの目標を達成することの難しさと自分にできることの多さに気付いた。単元の終末では、SDGsについての学習を通じて学んだことや考えたことを、下学年の子どもや保護者に紹介したり、市の共生推進グループの職員に提案したりして、周りの人と一緒にSDGsの目標の達成を目指そうとする意欲を高めた。

<来年度に向けて>

- ① 「異校種間・異学年間連携事業」や「高浜市が育てていきたい子どもの姿の周知に向けてのカレンダーの活用」については、本委員会の方針を意識した取組が各校で実践された。引き続き、取組に対しての価値について全教職員に情報発信し、新たな取組につなぐ。
- ② SDGsの学習については、高浜カリキュラムモデルプランと令和7年度の各校の実践を参考にし、各校で令和8年度以降も実践を継続する。

高浜版ギガスクール構想推進委員会

◆本委員会が推進していくこと

プログラミング的思考を育成する「高浜版プログラミング教育」の円滑な実施と資質・能力を一層確実に育成する ICT を活用した授業改善、情報モラル教育の充実

◆推進の方向

①ICT の積極的な活用による、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

②情報モラル教育の一層の充実

1 これまでの委員会の主な内容

<定例>

①5月14日（水）第1回委員会の開催

本委員会における活動方針の確認および各校における ICT の効果的な活用と情報モラル教育の実践について意見交流

②11月5日（水）第2回委員会の開催

情報モラル教育を充実させていくための手だてとして、情報モラルについての授業実践の収集方法や道徳の授業との関連について協議

③1月23日（金）第3回委員会の開催

今後の ICT 活用と情報モラル教育のより一層の充実に向けて、各学年の具体的な子どもの姿、指導内容と該当学年についての意見交換、来年度に向けた取り組みへの課題について

<成果>

(1)各教科における ICT の効果的な活用

- ・タブレットの導入から5年以上が経過しているため、日常的に利用している姿が見られる。ICT 機器を使う場面を意識して授業を組み立てるのではなく、他の教具と同様に授業のさまざまな場面でより効果的かつ能率的に利用する姿に変わってきている。
- ・デジタルアンケートで資料の活用の幅が広がった。
- ・ロイロノートで、意見の表明、共有、交流ができ、互いの意見を参考に授業を進めることができた。また、提出箱やシンキングツールを活用し、考えを共有した。
- ・委員会活動において、各学級の取組をロイロノートの提出箱に提出することで、その取組の様子を共有し、よりよい取組となるように見直すことができた。

(2)情報モラル授業の実施

- ・情報モラル授業については、計画的に実施されている。
- ・各学年に応じた、情報モラル授業実践を収集した。今後も積極的に収集、公開し、様々な場面で情報モラル教育を実践できるような資料を作成する。

(3)小学校における「高浜版プログラミング教育」の実施

- ・先を見通す力や細かく指示をする必要を児童が実感している。
- ・m-Bot をプログラミングで動かすことで、コンピュータで動く物の仕組みについてイメージ できるようになり、コンピュータやプログラムを主体的に活用することに慣れることができた。
- ・専門知識が豊富な ICT 支援員が、プログラミング学習を主で進めるため、児童にとって楽しくわかりやすい授業展開であり、有効であった。

<課題>

- ・今後もタブレット管理や著作権など情報モラルの面で、適切に扱う責任を自覚できるように指導の充実が必須である。また、AI の正しい使い方も身に付けさせる必要がある。
- ・ICT 機器の活用に対する情報交換を増やし、効果的な活用法を共有していく。
- ・情報の真偽を確かめ批判的に検討する力がまだ不十分であると感じるので、充実させる必要がある。
- ・デジタルとアナログのバランスが今後大事になってくる
- ・プログラミング学習の前にアルファベットやタイピングの練習の必要性和その時間の確保について

2 今後の活動について

- ・ICT の効果的な活用についての情報収集や研修についての検証
- ・特にロイロノートの実践に特化した具体的な実践の収集と周知
- ・情報モラル教育の具体的な実践の収集とその周知

キャリア教育推進委員会

◆本委員会が推進していくこと

なりたい自分に向かって学ぶ力を育むためにキャリア教育の充実に向けた取組を推進する

◆推進の方向

- ①本委員会の方針と今年度の活動について各校教職員への周知と共通理解
- ②キャリア教育の充実に向けた取組の検討
- ③来年度の取組の方向性を決定

これまでの委員会の主な内容

<定例>

①6月4日（水）第1回委員会

- ・本委員会の方針と今年度の活動内容の確認
- ・昨年度から継続して内容を見直している「高浜市キャリアパスポート（仮）」について検討

②8月25日（月）第2回委員会

- ・第1回委員会を受けて修正した「高浜市キャリアパスポート（仮）」について検討

③12月22日（月）第3回委員会

- ・第2回委員会を受けて修正した「高浜市キャリアパスポート（仮）」について検討
- ・「高浜市キャリアパスポート（仮）指導の留意点」について検討
- ・来年度の取組とその進め方についての提案

<今年度の成果>【資料3】

○昨年度の委員会で取りまとめた「こんなキャリアパスポートにしたい」という方針に基づき、「愛知県キャリア教育ノート」を参考にして、「高浜市キャリアパスポート」を作成した。

【令和6年度委員会にて取りまとめた「こんなキャリアパスポートにしたい」】

- ・子どもが自ら「書きたい」「残したい」と思うキャリアパスポートにしたい
- ・子どもが「自分を知る」ことができるキャリアパスポートにしたい
- ・子どもが頑張ったことを「具体的に」記録に残すキャリアパスポートにしたい
- ・子どもが周りの人（仲間・先生・保護者）と対話し、励まされるキャリアパスポートにしたい

○各委員より、「新たなキャリアパスポートを作成した意図や指導する時の留意点があると、新年度から各校で導入しやすいのではないか」という意見が出された。その後、委員の一人が検討中のキャリアパスポートに対応した「指導の留意点」を試作した。これを参考にして、「高浜市キャリアパスポート指導の留意点」を委員会で取りまとめ、次年度からの「高浜市キャリアパスポート」の試行に備えることができた。

<来年度の取組>

キャリアパスポートの活用の仕方についての協議を継続する

- ①活用事例を収集する。
 - ・子どもは、キャリアパスポートにどんな内容を記述しているか。
 - ・キャリアパスポートを活用して、どんな実践したか。
- ②活用の仕方を検討する。
 - ・子どもがこれまでの成長を実感し、今後の成長を楽しみにできる機会をどう設けるか。
 - ・子ども同士、教師、家族と対話できる機会をどう設けるか。

集団づくり推進委員会

◆本委員会が推進していくこと

自分を知り、持ち味を発揮している子どもが自分らしく輝くために、一人一人が持ち味を発揮できる集団づくりを推進する

◆推進の方向

- ①本委員会の方針と活動について、各校教職員への周知と共通理解
- ②一人一人が持ち味を発揮できる集団づくりの推進に向けた取組の検討
- ③来年度の取組の方向性を決定

これまでの委員会の主な内容

<定例>

①5月21日（水）第1回委員会

- ・本委員会の方針と今年度の活動内容の確認
- ・学級、学年、学校経営における一人一人が持ち味を発揮できる集団づくりの取組についての意見交流

②8月20日（水）第2回委員会【資料4】

- ・各校で実践した集団づくりに関わる活動についての報告
- ・一人一人が持ち味を発揮できる集団づくりの中で、「見られるとよい子どもの姿」と「教師が大切にすること」についての協議

③12月19日（金）第3回委員会【資料5】

- ・各委員がまとめた「集団づくり 指導のこつ」についての報告
- ・来年度の取組とその進め方についての提案

<今年度の成果>

○委員同士の意見交流や集団づくりに関わる活動報告を通じて、「見られるとよい子どもの姿」と「教師が大切にすること」をまとめた。

「見られるとよい子どもの姿」

- 楽しいと感じる、わくわくする気持ちになる ○自分からやってみようと思う ○自分の思いをもつ
- 自分の言葉で、自信をもって話す ○相手がいることを考えて話す ○相手の話をよく聞く
- 相手の意見や考えを聞いて、自分の意見や考えと組み合わせたり、優先順位を付けたりして、みんなでよりよい考えや意見にする

「教師が大切にすること」

- 子どもが自主的に活動できるように、きっかけを作る。指示をしすぎない ○子どもに期待をかける、任せる
- 子ども同士が関わり合うことが必要だと感じる状況を作る ○一人一人の子どものよさに注目する
- 子どもの発達段階、特性を十分理解する ○活動の過程や成果を「見える化」する
- 子どもの「できること」から始め、少しずつレベルアップした活動を準備する ○活動を振り返る機会を作る

○集団づくりの実践事例は、昨年度に引き続き、「活動紹介シート」にまとめた。実践事例から「集団づくりの指導のこつ」といえるものが見え始めたため、これをより具体化できるように、集団づくりを意識した「環境整備（教室環境・使っている具体物）」や「子どもを指導する時の心構えと具体的な方法（声のかけ方・授業や活動の進め方など）」について各委員が勤務校の様子をまとめた。

<次年度に向けて>

○委員会としての成果を各校の職員へ周知し、多くの職員に集団づくりに関わる活動を行ってもらいたい。周知の方法や実践事例の収集の仕方について、今後検討したい。

学校防災検討委員会

◆本委員会が推進していくこと

- 児童生徒の命や安全を守るための関係機関との連携確認
- 児童生徒に対する防災教育、教職員への防災研修の推進
- 保護者への引き渡しができなかった児童生徒が、一晩安心安全に過ごすために必要な備品等の点検、整備

<前期>

◆令和7年6月18日（水）第1回委員会の開催

- (1) 児童生徒の備蓄食について
 - ・各校児童生徒数の1割を3年に1度購入する。令和7年度予算要望、令和8年度購入予定。
- (2) 「学校防災倉庫維持管理表」について
 - ・不足の確認、補充の必要があれば予算要望
- (3) 非常時における対応について
 - ・令和6年度までの対応についての確認
 - ・「Jアラートが流れた時の高浜市内の学校における対応図」について、国が発信する緊急情報のシステムの名前を「Jアラート」と呼ぶため、「弾道ミサイル攻撃に関する警報が流れた時の高浜市内の学校における対応図」と名前を変更。
- (4) 今年度の課題
 - ・「大災害発生時の対応」をこれまで検討してきたことの整理。

<後期>

◆令和8年1月27日（火）第2回委員会

- (1) 今年度の各校の振り返り
 - ・引き取り訓練方式（保護者が教室に来るか、児童生徒が集合場所へ行くか）について、兄弟構成や混雑を踏まえて運用の検討が必要。
 - ・校内放送等の設備トラブル対策（誤操作防止、代替連絡手段の整備）が重要であることの実証。
 - ・教職員の安否・所在確認（非常勤・S A・S S等含む）の仕組みが未完成であり、児童生徒の安全優先の後に教職員の安否把握も課題。
 - ・防災倉庫や備品の保管場所が浸水等で使えなくなるリスクがあるため、保全対策の検討が必要。
 - ・消火器など防災機器は「展示」だけでなく実際に使う訓練が必要。職員研修の充実が必要。
- (2) 児童生徒の備蓄食について
 - ・令和8年度予算で保存食と保存水を入れ替え予定。
 - ・学校ごとの人数調査後に発注・配布。廃棄・保管は各校の裁量。
- (3) 「大災害発生時の対応について」の整理について
 - ・大災害発生時の対応フローチャート（在校中、登下校中、校外活動中）を例示。各校の状況に応じて作成・修正し、令和8年度第1回学校防災検討委員会までに整備。
 - ・全職員が「自分ごと」として考えられるような防災教育と研修の強化。児童生徒にも主体的に判断・行動できる力を育てる指導の重要性を再確認。
- (4) 防災防犯グループより
 - ・気象情報の警報体系が改定され、従来の区分（注意報、警報等）が5段階（早期注意情報、注意報、警報、危険警報、特別警報）へ変更。洪水表記の整理や高潮警報の見直しがあり、これに伴い避難行動レベル（レベル2＝行動確認、レベル3＝避難開始等）も明確化される。令和8年5月下旬から実施予定。

◆ 今後について

- ・有事の際に、児童生徒の命、安全が確保されるように、関係機関同士が連携しながら、より望ましい姿を検討していけるよう、本会議を運営する。
- ・大災害時において、初期段階での学校対応、市への避難所運営移行など、地域の防災拠点として学校が機能するよう、教職員の対応の仕方や避難所として必要な備品など、学校の防災マニュアルを改善・周知する。
- ・防災教育、避難訓練の在り方について見直し、実際を想定した訓練を考案・実施する。

教育環境整備検討（情報ネットワーク）委員会

◆ 本委員会の役割

新学習指導要領を踏まえた学校のICT環境整備を推進する。

高浜市内の小中学校の教育環境、ネットワーク整備に資する。

1 これまでの取組

（１）第２回教育環境整備検討（情報ネットワーク）委員会【令和７年５月３０日（金）】

① 各校問題点、全体での確認点について

- ・タブレットのOS更新が容量の問題でできないがどうすればよいか。

→ヘルプデスクと連絡を取り合いアプリを一時的に削除して容量を調整する必要がある。しかし、そもそもOSを一気に上げることが原因。次期更新後も、定期的なアップデートをお願いした。

② 校内で周知、学校経営グループへ提出する文書について確認

- ・今年度は端末の更新があるため、校務PCとタブレット端末の教員誓約書については、年度途中に再度提出の必要があることを確認した。
- ・ローカルデータへの保存などについて、一部セキュリティポリシーを改訂した。

③ 今後の高浜市内環境整備計画について

- ・夏に校務PC、タブレット端末を更新するため、臨時の環境整備委員会を開催し、詳細なスケジュールや作業内容を共有することを周知した。
- ・PC、タブレット更新に伴う、新旧端末の保管場所や保管庫へのケーブル取扱いなどについて確認。各校でどの立場の人間がどの作業を行っていくのか、事前にイメージをしておくことが大切であることを確認した。
- ・新端末については、通信容量を１人10GBにて行うことを確認。新PCへの更新に際して、「一太郎」を廃止（個人については申請書を提出することで可）することを確認した。

④ その他

- ・私用端末の取り扱いや現在の状況について確認をした。

（２）臨時教育環境整備検討（情報ネットワーク）委員会【令和７年６月２３日（月）】

① 校務PCの更新に係る作業内容、日程等について

ア 事前の作業内容や依頼事項確認

- ・機器保管場所、作業部屋の確保やインストール申請について

イ 設定作業期間中の作業内容や依頼事項確認

- ・搬入時の注意事項、設定作業中のアクセス可能期間、旧PCとの併用について

ウ 設定作業後の作業内容や依頼事項確認

- ・旧PCの保管場所やデータ消去について

② タブレット端末の更新に係る作業内容、日程等について

ア 初期化作業の日程と依頼事項確認

- ・対象端末の電源確認について

イ 旧端末、AppleTVの回収日程と依頼事項確認

- ・回収場所、回収可能物品と不可物品について

- ・市で購入したAppleTVと各校で購入したAppleTVの取り扱いについて

ウ 新端末使用に係る教員研修

③ その他

- ・夏季休業中の校務 PC とタブレット端末の更新に係る各担当の動きと日程について
- ・タブレット保管庫のケーブル更新作業について
- ・保護者向け文書について

(3) 第2回教育環境整備検討(情報ネットワーク)委員会【令和8年2月3日(火)】

① 年度末、年度初めのタブレット端末に係ることについて

ア 各学年の端末について

イ 異動する教員の端末について

- ・異動先の学校でデータが使用できる方法について確認し、前任校でログインできる期限を5月11日とした。
- ・予備端末となる端末については、各種システムからサインアウトをしておくとともに、SSOの導入に伴い、端末初期化も行うように各校で指示しておくよう依頼した。

ウ 新学期の登録について

エ 4月当初の授業におけるロイロや学習アプリの使用について

② 年度末の貸与パソコンの取り扱いについて

③ 年度末、年始の更新作業について

ア C4th による一括管理について

イ すぐーについて

- ・年度切り替えの設定日時については入学式の日12時とする。
- ・欠席連絡運用開始に伴い、年度更新の際のクラスとの紐付けについては、各校の実態に応じて各校判断で行う。

④ タブレット端末の OS アップデートについて

- ・OS アップデートへの保護者依頼について、すぐーにて市教委より一括で行っていく形へ変更する。
- ・OS のバージョンは26を推奨していくことを確認した。

⑤ 年度途中の転出入に伴う端末管理について

⑥ 今後の USB メモリの扱いについて

ア 昨年度より導入した、外部へのデータ持ち出しは専用 USB のみで行う運用について

イ 令和8年度夏より校内での私用メモリ使用禁止と専用メモリ使用について

⑦ その他

ア スマートオン(顔認証システム)について

- ・年度当初に慌ただしくならないように、事前に登録徹底について依頼した。

イ グーグルフォームへのアクセスについて

ウ 複合機と印刷機の更新について

エ まなびポケットからの MEXCBT へのアクセスについて

オ 文書管理システムの導入について

2 今後の取組

今年度は、校務 PC とタブレット端末の更新作業が夏季休業中に行われた。各校の協力もあり、更新作業、その後の使用について大きな問題なく行うことができた。次年度以降も、印刷機と複合機の更新、校内メモリの配布・使用や文書管理システム導入などが控えている。本委員会にて、情報の共有や各校への依頼を計画的に行い、円滑に進められるようにしていく。

特 別 支 援 教 育 委 員 会

◆本委員会が推進していくこと

- 1 こども発達センターと連携し、一人一人のニーズに応じた支援とそれに係わる保護者支援を進めること。
- 2 特性を理解しながら子どもの実態を把握し、一人一人のニーズに応じた支援が継続的・発展的に一貫して行われるためのシステムを構築すること。
- 3 各園・各校が子どもたちへの理解を深め、特別支援教育を推進する力そのものを向上すること。

◆これまでの取組み

【1：こども発達センターとの連携について】

①教育相談

- ・こども発達センター主催の5歳児健診に、担当指導主事が参加し、保護者向けに就学準備や特別支援教育等についての教育講話をするとともに、早期からの保護者支援や就学指導がスムーズにできるようにしている。5歳健での情報共有

②専門家チーム巡回指導訪問

- ・市内の各幼稚園・保育園と各小中学校に専門家チームを派遣している。教育委員会の専門家とこども発達センターの専門職でチームを組み、小学校区ごとにチームを指定して、発達が気になる子どもたちの観察、支援の仕方への指導助言を行っている。小学校区ごとにチームを指定することで、幼保から小中学校へ支援の継続ができる。

＜専門家チームの学校訪問回数とチーム構成（こども発達センター資料より）＞

	小 中 学 校	幼稚園	保育園	学校訪問回数	園訪問回数	専門家チームの構成	
						専門職	職員
1	高浜		中央 たかはま	小中学校の み定期 + 小中希望に より実施	4	野田先生（言語聴覚士） 石野先生（臨床心理士）	② 林田（保健師） ① 小林（子ども誠） ③ 小笠原（子ども発達） ※①～③の内1人以上 （必要に応じて） 教務主任、 特別支援コーディネーター 園長、園の主任
2	吉浜	吉浜	北部 吉浜 さんさん		8	中村先生（作業療法士） 石野先生（臨床心理士）	
3	高取		高取 ひかり たかとり		4	森田先生（臨床心理士）	
4	港	南部	南部		6	杉浦先生（臨床心理士） 石野先生（臨床心理士）	
5	翼	吉浜	よしいけ 翼		5	杉浦先生（臨床心理） 石野先生（臨床心理士）	
6	高中				1	杉浦先生（臨床心理士）	
7	南中				1	森田先生（臨床心理士）	

※専門家チームの巡回指導訪問

「定期訪問」…各小学校/2回訪問、各中学校、各園/1回訪問

「希望訪問」…各園、各小中学校が対象

③連続研修：こども発達センター主催、保護者・支援者向けの研修

テーマ：「発達が気になる子ども達の子育てを考える」

対象	日時	講義内容	講師
保護者	6月17日(火)	園生活を体験してみよう	野田先生(言語聴覚士)／小林先生(こども育成)
支援者	8月19日(火)	みんなでこどもの話をしよう	高浜市職員／たかはま障がい者支援センター SSW／高浜市教育委員会 家庭児童相談員・子ども子育て相談員／こども家庭センター
市民及び支援者	① 7月17日(木)	市内で受けられる支援・サービス	高浜市教育委員会／みどり学園 高浜市職員／たかはま障がい者支援センター
	② 10月2日(木)	先ばいお母さんの話を聞こう	先ばいお母さん3名
	③ 10月30日(木)	キャラバン隊 まいペース講演	キャラバン隊 まいペース
	④ 12月18日(木)	サポートブックの作り方と使い方	手をつなぐ育成会・高浜市教育委員会

【2：システムの構築について】

①高浜市連携協議会（年2回）

発達障害を含む全ての障害のある幼児児童生徒の支援のため、高浜市教育委員会特別支援教育アドバイザーや学校関係者、保健・福祉関係者、市民代表者が連携した協議会を設置し、各種教員研修、外部専門家の巡回・派遣等をコーディネートし、学校等（幼保小中高）の特別支援教育を総合的に推進する。

②高浜市教育支援委員会（年3回）

・就学先決定やその後の一貫した支援について、早期からの教育相談・支援を踏まえた助言を行う場として開催している。

【3：推進力の向上について】

①高浜市特別支援教育研修会：市主催の特別支援教育研修会

対象	日時	講義内容等
2年目・3年目教員 スクールサポーター 希望者対象	8月4日(月)	○講話 「特別な支援を必要とする児童生徒のアセスメントをする際に大切にしたいこと」 講師：平田 清二 氏
2年目教員	7月～8月	「療育施設での支援の実際、保護者支援の方法」 高浜市社会福祉協議会 みどり学園なかよし教室にて
3年目教員	6月～12月	「発達が気になる子どもたちの観察、支援の仕方への指導助言について」 専門家チーム訪問に同行し、市内幼保育園・小学校の巡回訪問、事例研究会に参加
特別支援教育コーディネーター連絡会	4月25日(金) 2月24日(火)	特別支援教育の取組について 今年度の振り返り
通級指導担当教員研修会	4月30日(水) 2月4日(水)	通級による指導を担当する教師のためのガイドについて 今年度の振り返り
特別支援教育CD・通級担当者研修会	9月10日(月)	研修「知的障害・発達障害のある児童生徒の理解と支援」 講師 港小学校 校務主任 西村 吉充 先生
特別支援アドバイザー訪問	年間 希望日	特別支援学究の授業研究、支援の仕方の指導・助言 特別支援アドバイザー 奥谷敦子

◆問題点・改善策

他の関係機関との支援情報の具体的な共有方法をどのように図っていくか、将来に必要な支援情報は何かを検討する。また、支援情報のよりよい保管システムを構築することで、中学校卒業後も支援を継続できるような体制を整備していく。

